

「夏季猛暑」「トマト黄化葉巻病」から産地を守る！

～高温対策を含む総合的対策を関係機関で推進～

1 活動のねらいと背景

富里市において、抑制トマトは、半促成スイカの後作として経営上重要な品目です。

しかし、最近の記録的猛暑により、着果不良、裂果等の果実品質の低下やタバココナジラミに媒介されるトマト黄化葉巻病の多発生が課題となっており、令和6年度出荷量は平年比で約6割となりました。このような状況もあり、抑制トマトから抑制スイカに品目転換する生産者も出てきています。また、タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病だけでなく、スイカ退緑えそ病の原因ウイルスも媒介し、葉物類へ付着し出荷された場合は異物混入となる等、品目問わず、大きな課題となっています。

そこで、令和7年はJ A富里市、丸朝園芸農業協同組合、富里市等の関係機関と連携して、高温対策を含むトマト黄化葉巻病の総合的対策（以下「総合的対策」という）を推進しました。



トマト黄化葉巻病の症状

2 普及活動の経過

(1) チェックシートを用いた全戸個別巡回の実施

コナジラミ類を「入れない」「増やさない」「出さない」「つながらない」といった総合的対策を普及するため、J A富里市、丸朝園芸農業協同組合、富里市と連携し、育苗期（6月上旬）、定植期（7月中旬）、生育期（8月下旬）、栽培後期（10月下旬）に、各時期に抑えるべきポイントを記載したチェックリストを活用しながら全戸個別巡回しました（J A富里市72名、丸朝園芸農業協同組合20名）。



育苗期巡回
(令和7年6月4日撮影)

(2) 自動かん水装置の効果検証・普及

高温対策として定植直後、生育初期での生育促進のため「少量多回数かん水」の推進を図っていますが、かなりの手間がかかります。そこで、県農林総合研究センター野菜研究室をはじめとした関係機関と連携して、かん水の省力・効率化につながる自動かん水装置の効果検証をちばの園芸高温対策緊急支援事業（以下「高温事業」という）を活用して導入した生産者ほ場で行いました。



自動かん水勉強会
(令和7年9月12日撮影)

9月12日には、メーカーを招きこれらの機材を導入しているほ場を巡る勉強会を開催し、生産者11名が参加しました。

(3) 「つながない (蒸し込み)」の周知徹底 (土壌くん蒸剤による枯死効果の確認)

コナジラミ類を次作に「つながない」ためには、栽培終了時にハウスを密閉し、残さを完全枯死させてからハウス外に搬出する必要があります。しかし、個別巡回をする中で、「つながない」対策が適切にできていない生産者が多いことが分かりました。そのため、土壌くん蒸剤「キルパー」を施用し適切に蒸し込みができないか、1戸のトマト生産者圃場にてメーカー協力のもと効果を検証しました。



栽培終了時に扉が開いた状態のハウス
(令和7年11月4日撮影)

3 活動による変化と動き

(1) チェックシートを用いた全戸個別巡回の実施

全戸巡回を通して、総合的対策の周知を図るとともに、「生産者自身は適切に行っていたつもりでも、できていないこと」をチェックリストにより「見える化」し、技術改善につなげました。その結果、トマト黄化葉巻病の発生率を昨年の約4割から約1割程度に抑えることができ、収量・品質とも例年並み以上の結果となりました。

(2) 自動かん水装置の効果検証・普及

効果検証の結果、収量は変わらずに、かん水にかかる労力を大幅に省力化できることが明らかになりました。また、アンケートでは令和8年度の高温事業で導入を検討している対策を聞き取り、自動かん水設置の導入意向が多いことが分かりました。これを受けて11月20日、12月1日にはメーカーと一緒に自動かん水装置についての勉強会を個別に実施しました。その結果、次年度は、5名程度が高温事業を活用して自動かん水装置を設置する動きが出てきました。

(3) 「つながない (蒸し込み)」の周知徹底 (土壌くん蒸剤による枯死効果の確認)

効果検証の結果、キルパーを施用することで、処理5日後で①古株枯死させ、②ハウス内のコナジラミ類を処理前の9割程度に減少できることが分かりました。

自動かん水装置は、「少量多回数かん水」を省力的に行うことができるだけでなく、キルパー施用にも対応が可能です。将来的には、自動かん水装置により「少量多回数かん水」が効果的に実施されるとともに、トマト栽培終了時にはキルパー施用によりコナジラミ類によるウイルス伝ばを途切れさせ、次作に「つながない」対策がより効果的に行われることが期待されます。



キルパー処理5日後の様子
(令和7年12月10日)

4 今後の課題と活動

今年度の普及活動により、昨年に比べ収量・品質向上が図られましたが、夏季猛暑下においても管内のトマト生産者の中ではより高収量、高品質を実現している生産者がいます。継続して技術改善を図り、富里市生産者の栽培技術高位平準化につなげます。

5 担当グループ名 八街・富里グループ